

またも列車分離発生！いま本当に「安全」ですか？

3月6日11時30分頃、上野～上一運間走行中の3021B列車(Z+H編成)において、10号車と11号車が列車分離するという極めて重大な事象がまたもや発生しました。幸いにもお客さまや乗務員にケガなどはありませんでしたが、昨年9月19日にも古川～仙総所間で同様の事象が発生しています。わずか半年の間に列車分離が立て続けに発生している事自体が極めて異例であり、新幹線の安全が危機的状況に陥っているのではと疑わざるを得ません。今回の列車分離を国の運輸安全委員会は、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる「重大インシデント」とであると認定しました。いま「安全」への信頼が大きく揺らぎ、当社に厳しい目が注がれている現実を私たちは認識しなくてはなりません。

昨年9月の列車分離発生後、新幹線協議会では直ちに緊急申し入れを行い、徹底した原因究明と再発防止を会社に求めて団体交渉を行いました。その席上で会社は列車分離について「あってはならない事象であった」との認識を述べる一方で、私たちが「原因が判明していない中での併合運転継続は問題がある」と主張したことに対しては「車両等の状況から他編成で同様の事象が発生する可能性は低い」として併合運転継続の判断に問題はなかったとの回答を繰り返しました。この回答を受け、私たちは「発生事象に対し、お客さまや現場と会社との間に認識の乖離がある」ことを席上で訴えました。

前回の列車分離に対する会社の判断には問題がなかったのか？原因究明から十分な検証を元に対策は実施されたのか？再発防止に向けた取り組みは継続して実施されていたのか？「想定外」は本当に想定されていたのか？今後徹底して検証を行う必要があります。

新幹線協議会は新幹線の安全・安心を再構築するため、繰り返された列車分離により大きく損なわれたお客さまや世間からの信頼を取り戻すために今回の事象の徹底的な原因究明と対策実施を会社に求めています。「安全」なき労働はあり得ません。「信頼」なき会社の存続もあり得ません。私たちの命と雇用に直結する問題です。

新幹線に自分の命を預け、お客さまの命をお預かりして仕事をしている者として、改めて「安全は全てに優先する」ということを強く訴えます。今回の事象に限らず、業務や施策についてなど、気になることや疑問に思っていることがありましたら、JR東労組までお寄せください。新幹線協議会は職場からの声を原点に運動を展開していきます。